

第8回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成26年11月17日（月） 14:00～16:00

II 会 場 千葉市総合保健医療センター4階 会議室

III 出席者

（委 員）杉田委員、碓氷委員、菊池委員、久保田委員、田川委員、加瀬委員、
野口委員、渡邊委員、今関委員、浅野委員、田島委員、桐岡委員、
渡邊委員、吉岡委員、櫻井委員 計15名

（代理出席）井山氏（小澤委員代理出席）、菊池氏（岡田委員代理出席）

（事務局）発達障害者支援センター：仲村相談支援員、上田発達支援員
障害者自立支援課：柏原課長、塩原主査、深山主事
千葉市療育センター：高橋事務局長

IV 配付資料

資料1・2	年度別実績報告一覧表（平成22年度～平成26年度）
-------	---------------------------

資料3	平成25年度 事業報告
-----	-------------

資料4	平成26年度 事業経過報告
-----	---------------

資料5	事例検討（事例1、事例2）
-----	---------------

V 議事概要

（1）平成25年度、事業報告について

事務局より、資料1～資料3に基づき説明し、質疑応答を行った。

（2）平成26年度、事業経過報告について

加瀬委員より、資料4と併せて支援センターの活動を報告し、質疑応答を行った。

（3）千葉市の発達障害者支援について（事例検討）

加瀬委員より、事例を紹介し、検討を行った。

（4）その他

□ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙1のとおり

【別紙1】第8回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

○ 事務局（上田）

～開会、資料確認等～

○ 柏原課長

皆様こんにちは。障害者自立支援課長の柏原でございます。

本日はご多忙のところご出席頂きまして、まことにありがとうございます。また皆様方におかれましては、日頃より本市の発達障害者支援の推進にあたりまして、ご理解とご協力をいただいておりますことを、重ねて御礼申し上げます。

さてこの連絡協議会は、発達障害者に対する総合的なサービスの在り方や、関係機関との連携体制の確立、また関係機関が抱える諸問題への対応を専門的に協議・検討するために、平成20年7月に設置され、今回で8回目となります。本日は千葉市発達障害者支援センターの実績報告と共にそれぞれ委員の皆様の皆様のお立場から貴重なご意見をいただければと考えております。

また今回、新しい取り組みと致しまして2つの事例について検討を行うということです。やはり発達障害者やその家族への支援法などについてはより具体的な認識を深めていかなければ相互の連携というのは難しいと考えておりますので、そういった認識を深める機会になればと考えております。

結びに発達障害者支援センターを中心に展開致しております発達障害者への支援の充実にあたりましては、ここにご参加頂いている委員の皆様の総力を結集して頂かないとなかなか手が届かない、まだまだ大変な部分も多くございますので、引き続き皆様のご指導、ご鞭撻をいただけますようお願いしたいと思います。

以上、簡単ではございますが開会前のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

○ 事務局（上田）

～新委員紹介～

続きまして、次第の4議題に入らせていただきます。以降の進行は杉田座長にお願い致します。

○ 杉田座長

それでは次第の4議題に入らせていただきます。司会からお話がありましたが、16時頃を目安に閉会したいと思いますので、ご協力をよろしくお願い致します。ではまず（1）の『平成25年度、事業報告について』説明をお願い致します。

○ 事務局（仲村）

～資料1・資料2・資料3の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見はございますか？かなり範囲の広い支援を千葉市発達障害者支援センターはよくやっていると思います、いかがでしょうか。

○ 菊池委員

自閉症協会の菊池と申します。よろしくお願い致します。実支援数、延支援件数共に減少しているのですが、このことについて、センターはどのようにお考えですか。

○ 加瀬委員

発達障害者支援センター所長の加瀬です。よろしくお願い致します。発達障害者支援センターは所長含めて常勤職員3名と非常勤職員2名（週5日勤務1名、週1日勤務1名）の5人体制になっております。25年度は10月で週5日勤務の非常勤職員1名が退職して、欠員状態になっておりました。事務所に職員がいない状況になり、受付自体がままならない状態になったことが一番の大きな原因です。

もう1つはペアレント・トレーニングや年中児集団行動観察で、外に出て行う業務等が増加し、どうしても個別支援に関わる時間というものが減少致しました。この2点が大きな原因だと思っております。

職員募集に関しても25年11月から行ってきましたが、職員が定着せず、実際には今年6月に非常勤職員が1名入ったのが現状です。よろしいでしょうか。

○ 菊地委員

ありがとうございました。職員が減ったので対応できなくなった、個別支援から機関支援に移ったから減少したということでよろしいでしょうか。個別支援1つ1つに対応していくと何人いても足りないのはよくわかりますが、ニーズがどこにあるかを確かむためには、個別の相談を受けた後、その方に対してどんな支援が行われたかまで把握した方が良くと思います。

もう1つ疑問があるのですが、「義務教育期間の支援体制は整ってきているが」とありますが、学齢期までは養護教育センターにお願いをしているので、その部分はこちらでは取り扱いませんという理解でよろしいでしょうか。

○ 加瀬委員

取り扱わないわけではありません。養護教育センターや小学校、中学校とは連携が取れる体制が整ってきていますが、高校や専門学校、大学等との連携に関しては弱い部分であります。高校の先生、親御さん、民間の相談機関等と相談をしてはいますが、義務教育後の支援の弱さや情報の不足を感じています。

○ 菊池委員

ありがとうございました。私達利用者サイドからすると、幼稚園から小学校に上がる時、学校間を移動する時、卒業してどこかに行く時など移行の部分が弱いというのは強く感じています。切れ目のない支援がキーワードになっていると思います。切れ目なく生涯にわたって支援されるということを担保するために、支援センターが作ったサポートファイルも有効だと思います。全てのデータがどこかにあることが大事だと思いますのでよろしくお願い致します。

○ 杉田座長

サポートファイルが学校現場であまり使われていません。作成の責任者として、ぜひ学校関係者の方々も来られていますので、認識を新たにしていきたい。

幼稚園から義務教育卒業までということで、吉岡委員お願い致します。

○ 吉岡委員

養護教育センターの吉岡です。まずは就学相談でたくさん情報提供をして、就学先選択の支援は行いたいと思っております。サポートファイルはどのように使っていくかを考えているところで、療育センターと相談しながらやっていかなければいけないとは思っています。整備する必要は感じていますが、できていないところはあります。

○ 杉田座長

他の4名の方もいかがですか。何かご意見があったらお願いします。

○ 今関委員

保護者の方にサポートファイルを紹介させていただきました。実際に自分もダウンロードし、通級の保護者控え室に置いて、こういう資料を作ると小学校、中学校にわたって積み重なっていけますねとご紹介しました。保護者が書くところがたくさんあって、どう作ったらいいか難しいところもあったようです。1名の方が作り始めており、自分も小学校段階での実態と支援の方法のページを作らせていただきました。まだそれほど周知はしておらず、作れるところから作っていただきたいと思います。

○ 杉田座長

他に何かご質問ありますか。

○ 久保田委員

移行については特に中学から高校に上がる時の弱さを感じます。今後、学校と本人・保護者との間に入ってくれるところはどこなのだろうかととても心配しています。新たに何かを作るというよりは、皆さんの機関で利用期間を延ばすといった形で取り組んでいただかないと、すぐには対応できないと思います。

○ 杉田座長

今の点はいかがでしょうか。

○ 吉岡委員

養護教育センターは年長から中学校までとなっていますが、継続の場合は高校生の支援も行っています。今日も私立高校の先生から、1年生で少し課題のある生徒がいるが、どこに相談したらいいかわからないと問い合わせがありました。新規でしたので、県の総合教育センターを紹介しました。千葉市では教育センターが高校生の相談を受けていますので、教育センターが窓口になります。

○ 杉田座長

いかがですか。

○ 碓氷委員

市立養護学校の碓氷です。本校では高等部からその後の就労先や施設への移行については移行支援計画を提出して相手方へお伝えしています。高校からは「中学校からもう少し早く情報をいただきたい」という声も受けているので、中学校側に高校では体制を整えようとしていることをお伝えしています。

特別支援学校にはセンター的機能があり、高校から発達障害、知的障害を含めて多くの相談が寄せられ、どちらかというと増加傾向です。相談数が減っているのは、ポスターなどが目に触れる場所にないことが原因ではないかと思っています。

市立養護学校では発達障害の方が目に触れて気付けるようなポスターを製作中です。子ども達が自分で気が付ければ、いちばんすんなりと受け入れるのではと思っています。何らかのサポートができると思いますので、最寄りの特別支援学校の地域支援に連絡いただければと思っています。以上です。

○ 杉田座長

他にいかがですか。

○ 菊池委員

ペアレント・トレーニングですが、このプログラムはADHDと診断された方に向けていると思います。自閉症の子どもの子育てにおいて、3歳から5、6歳までは親がとても追い込まれる時期で、どういう風に子どもを育てたらいいのかと、とても悩む時期です。この頃にうつになるお母さんもとても多く、周りの方からの視線がどこに行っても刺さる状態になるので、ここの部分を何とかサポートしたいと自閉症協会は思っています。自閉症のお子さんを持つ親御さんを対象にしたペアレント・トレーニングを行う計画はないでしょうか？

○ 加瀬委員

事務局、担当からお願いします。

○ 事務局（仲村）

ADHDを対象にしたものが今年で3回目になりますが、リーダー、サブリーダーを務めるには経験が必要です。私は今年でリーダー2年目ですが、サブリーダーは毎年、人事異動の関係で変わっています。全ての職員が基本的なADHDのペアレント・トレーニングを身に付けてからでないと、次のステップに進むのは難しいと考えております。ADHDと診断された方でも自閉症、広汎性発達障害が重複されていると思われる方もいらっしゃるので、やはりその特性にも目を向けていかなければいけないとは思っていますが、リーダーの技術がまだ追い付いていないというのが現状です。今後どうするかは支援センターで検討になるかとは思いますが。

○ 加瀬委員

ペアレント・トレーニングに関してはスタッフ間でも、最終的にはADHDだけでなく他の方も含めて行うことの検討は重ねてきています。ただ現実的にはスタッフのリーダー育成に課題があり、今はADHDを対象としています。

○ 菊地委員

ありがとうございました。ペアレント・トレーニングは、ずっと希望していたことなのでとてもありがたく思っています。支援センターが行うのではなくて、ペアレント・トレーニングを外部に委託するのもよいのではないかと思います。そのお考えはいかがでしょうか。

○ 加瀬委員

最終的には市内の支援機関に対して支援者を養成することを目標にはしています。そのためには私達スタッフのスキルがないと支援者養成にはつながりません。まずは現場のスタッフの養成をしながら、最終的には支援者を養成して、発達障害者支援センターだけでペアレント・トレーニングを行うのではなくて、市内の各所で行えるようにしていくというのを内々の目標にしております。

○ 菊池委員

ぜひ実現させていただきたいと思います。これは早めに始めていただきたいです。強度行動障害の人に関わるのが最近とても多いです。今、強度行動障害を起こしている人に支援することも大事ですが、幼児期にきちんとトレーニングして、強度行動障害を作らないことが一番大事だと思います。学校の先生達にも強度行動障害を作らない教育をきちんとしていただきたい。なってしまったから誰も見てくれない状況は本当に辛く、一家心中するしかないという言葉を見た人を2人知っています。やは

り強度行動障害や行動障害を作らないための支援を早めにしていくということがポイントだと思うので、ぜひペアレント・トレーニングも早めに取り組んでいただければと思います。よろしくお願い致します。

○ 杉田座長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。久留米ではADHDのペアレント・トレーニングを、久留米大学の先生や学生を巻き込んでかなりの大人数でやっています。やはり地域差があるので、資源を活用してうまく広げていけるような方向性は支援センターに考えていただければと思います。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では『平成26年度 事業経過報告』の説明をお願い致します。

○ 加瀬委員

～資料4～の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお願い致します。

○ 久保田委員

千葉発達障害児者親の会コスモの久保田と申します。サロンには6人～12人の方が参加されているとのことですが、知的障害のある方もいれない方もいると思います。また就労の形も就労継続A型の人がいれば一般就労している人まで色々な幅があると思います。どちらかというと知的障害のある方や一般就労よりは支援を受けて就労しているの方が支援は手厚いイメージがあります。コスモの会員の中には大学を出て一般就労しているが誰にも相談できず、仲間がほしいという人がいます。色々なところに行ってみても、話が合う人がいないとがっかりしていて、ちょっと可愛そうだなと思うことがあります。いかがでしょうか。

○ 加瀬委員

一般就労を目指していらっしゃる方、療育手帳をお持ちの方、就労移行に通っている方など様々な方が参加されています。最初の何回かで完全フリートークをやったところ、話がまとまらず、お互いに言いたい放題になって収集がつかなくなってしまいました。完全フリートークはやめた方がいいという参加者達の反省をもとに、1時間はフリートーク形式のもの、残りの30分はゲームをするという形で行っています。年度によって参加するメンバーが変わりますので、スタッフがリーダーではありますが、基本的には皆さんで話し合っていて決めています。

○ 久保田委員

もし人数が多ければ、タイプ毎や就労形態毎に分けられるのですが、6人～12人では分けられるほどの人数ではないので、もっと広く色々な人に参加してもらえればと思います。

○ 加瀬委員

もう1つ付け加えさせていただくと、終了後に問題が起きることがあります。継続相談をされている方で、通常の相談の中で振り返りをしながら、しえるろっくの意味や活用してみてどうだったかなどのフィードバックもしながら取り組んでいます。他の方への公表なども含めて今後、検討していきたいと思っています。

○ 杉田座長

他にいかがでしょうか。

○ 浅野委員

高等特別支援学校の浅野です。今年、支援センターで相談をされた方の入学相談と見学を行いました。現在、市内・県内に在学をしていて、他の学校へ進路変更をしていくというケースはけっこうあるのでしょうか。その時のアドバイスはどのような形で行っているのでしょうか。連携の必要性を感じております。

○ 事務局（仲村）

普通高校に通っていたが不登校になったので、他の学校に移りたいという相談は年間何件かあります。知的障害がない場合では、だいたい皆さんサポート校への進路変更が多くなります。特別支援学校はやはり療育手帳が必要になるので、そうでない方はサポート校、通信制への進路変更が多くなっています。サポート校は私立なので、経済的事情により難しいという方もいらっしゃいます。

○ 菊池委員

今年、千葉県で幕張総合高校と佐原高校がモデル校になって、特別支援教育をやっていると思います。そういう情報は千葉市には入らないのですか。

○ 浅野委員

行っているという話は存じ上げています。具体的にどういう研究をしているかは勉強不足です。

○ 菊池委員

県の教育委員会が自信を持って展開をしています。偏差値の上下に関係なく、各校に発達障害の子はたくさん通っています。高校サイドでも問題意識を持って取り組ん

でくださっているのです。高校に関してはそれほど悲観していません。特別支援学校、高等特別支援学校もあります。普通高校でもけっこう受け入れているので、もう少し県内の情報とリンクした方がいいと思います。

○ 杉田座長

心がけてください。

○ 久保田委員

佐原高校と幕張総合高校はどちらかというと知的レベルの高い子の支援を行っています。船橋高校の定時制はキャリア教育、就労の支援を行うモデル校になっています。コスモの会員でも高校で不登校になった子がサポート校に転校、もしくは中学校卒業時点でサポート校を選んでいるケースは非常に多いです。経済的に難しいと県の教育委員会に相談したら、療育手帳が取れないのであれば、病弱ということで特別支援学校を選んでもいいのではないかと勧められました。実際にうまくいくかはわかりませんが、病弱の生徒を特別支援学校でも受け入れる方針に転換していくとの話でした。うまくいっているという事例はわかりません。

○ 杉田座長

コメントということでよろしいですか。教育の問題は色々あると思いますが、他に何かありますか。

○ 渡邊委員

末広中学校LD等通級指導教室担当の渡邊と申します。まず高等学校についてですが、今年、関東ブロックの特別支援教育研究協議会が柏で開かれ、高等学校における特別支援教育というテーマで船橋高校定時制の先生が話されました。通常学級の先生がどれくらい出られるかはわかりませんが話は伝わるかと思います。また、10月下旬に行われた宮崎での全国大会の分科会でも高校における特別支援教育というテーマがありましたので、だいぶ盛んになってきていると私も感じているところです。

四街道特別支援学校と仁戸名特別支援学校は発達障害の受け入れをスタートしております。実際に昨年度、通級指導教室の生徒が最終的には四街道特別支援学校に進学しました。療育手帳は必要ないが、精神障害者保健福祉手帳は必要ということではありましたが、1つの方法として報告させていただきます。以上です。

○ 杉田座長

他にいかがですか。医師からの診断書提出依頼が多くて困っています。診断書等の事務手続きが増えてきています。医療側としては診断書を求める理由は何かと考えてしまうような状況で、何とかしてほしいというのが私の意見です。他にいかがですか。

○ 久保田委員

コスモでも特に病院にかかる必要のない方が多くいます。精神障害者保健福祉手帳を取るため、手帳の継続のためだけに病院に行くことに抵抗がある方は多いです。何かしらの証明で何とかならないのかと思います。特に手先の不器用なDCDの方は、そのために精神科に行くことがどうしても嫌だと言う方もいます。もう少し手帳や学校の入学などの場面で書類を何とかしてほしいと思っています。

○ 杉田座長

全体的な福祉の問題ですね。書類については医療側も保護者側も簡素化してほしいということですね。

○ 田島委員

若葉保健福祉センターの田島でございます。今、ご意見のあった件につきましては、今後、検討していかなければと考えております。

○ 杉田座長

せっくなので千葉市としてのご意見を伺いたい。

○ 柏原課長

発達障害者手帳をという話も多々出ていると思います。精神障害として通院が必要な方がサービスを利用するための裏付けとして各種診断書、更には年金でも診断書が必要であることは間違いありません。障害者総合支援法では障害者各自の声を聞きながら、医学モデルから社会モデルへの変化が重要なテーマとして継続的に議論されているはずで、まずは医療による証明によって、全てが成り立っているのが日本の福祉の基本となっています。いずれ社会適応の評価が客観的にできるようになれば減らしていくと思いますが、療育手帳でさえ全国的になっていない状況もありますので、まさしく国においての大きな問題だと捉えております。それに併せまして、できるだけ皆さんへのサービスが簡素にできるように検討していくべきだと考えております。以上でございます。

○ 杉田座長

ありがとうございます。精神障害なのか知的障害なのかという書類の分け方もナンセンスです。事務の方に両方合併している人はどうするのか聞くと、どちらかにしてくださいと言われます。2年毎の更新についても、今日ここで言うべきことかはわかりませんが、ぜひ検討していただきたいと思います。

時間も延びてきていますので、次に入らせていただきます。（3）千葉市の発達障害者支援について（事例検討）をお願い致します。

○ 加瀬委員

はい。よろしくお願い致します。発達障害者支援センターも8年目を迎えております。今まで私達が支援をしてきた中で課題が出てきておりますので、少し細かく事例検討をさせていただければと思っています。まずは目を通していただいて、その後少しこちらで説明をさせていただこうと思います。よろしくお願いいたします。

【事例1】

○課題

- ・小学校までは特別支援学級で本人に適した教育を受けてきたが、療育手帳が取得できなかったために特別支援学校高等部へ進学できなかった。
- ・サポート校への進学が適していると思われたが、経済的事情により進学できなかった。県立高校定時制に進学したが、本人の希望ではなく、なじめなかったために中退となった。
- ・障害を告知していないため、障害福祉サービスの利用や地域活動支援センターなどの利用が難しい。
- ・本人はフリースクールやフリースペースに興味を示すが、利用料金がかかるために母親が難色を示す。



- ・知的障害がなく特別支援学級に在籍していた子の進路について
- ・経済的に困窮している家族への支援について
- ・継続的なアウトリーチ型支援について

○ 加瀬委員

そろそろよろしいでしょうか。進め方としては事務局より補足説明を行い、その後に皆様からご意見をいただいて、これからの発達障害者支援センターの支援の中で活かしていきたいと思っています。

○ 事務局（仲村）

このケースは母子家庭でお母さんが働かないと生活ができず、ご本人への支援が十分にできないという状況にあります。ひきこもり状態なので、継続的なアウトリーチ型支援が展開できると、もっと信頼関係が築けるのではないかと感じていますが、支援センターで訪問するにも限界があります。ひきこもり支援をしている機関の利用は基本的にお金がかかってしまうので、何か良い手立てがないかと思ってあげさせていただいています。

○ 加瀬委員

色々なことが想定されるかもしれません。先程の話の中で解決できる部分とまた新

たに皆様がお持ちの情報を含めてご意見をいただければと思います。何かございますか。児童相談所はいかがですか。

○ 小澤委員代理（井山氏）

療育手帳判定は児童相談所で行っていますが、特に高校進学の時期になると、ご家庭の様子やご本人の課題をよくわかっているけれども、知能検査を取った結果、本当はお出ししたいという思いはありつつ、非該当と判断せざるを得ないのが現状です。

児相としても厳しい状況としか今の時点ではお答えできず、申し訳ございません。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

○ 碓氷委員

市立養護の碓氷です。まず1つは外に出るためのノウハウというものを本人と話し合いながら整えていく、忙しいお母さんのご協力も得なければできないですが、まずはできることからやればいいのかと単純に思います。

もう1つは食事が1日に1食の時もあるということであれば、生活上の支援が必要なご家庭だと思います。身体的な面が疎かになれば次へのエネルギーも出てこないと思うので、できることから1つ1つやっていけばいいと思います。進路の前にやることはあるのではないかと。力は本来持っていると思いますので、環境を整え、ひたむきに支援していくしか現段階ではないと思います。以上です。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。他にご意見いただける方はいませんか。

○ 菊池委員

シングルマザーはとても多いです。経済的に大変な家庭は非常に多くて、障害を持っている子どもを見ながら、シングルで働かなければいけない。子どもに関わる人が誰になるのか、この方には誰かが直接的なサポートに入らなければいけません、お母さんはやれないです。そうすると誰が支援に入るのか。これは援護課が関わっているケースなのではないでしょうか。

○ 事務局（仲村）

援護課は関わっていません。生活保護まではいかないケースです。

○ 菊池委員

援護課は関わっていないのですね。どこかが直接的なサポートに入らないと、変わらないです。そうでないと将来的にとっても心配な状況になると思います。こういった

ケースはけっこう多いので、アイデアを教えていただければと思っています。保健福祉センターは情報をお持ちではないでしょうか。

○ 田島委員

療育手帳も取得されていないとなると、あとは民生委員さんをお願いして、家庭訪問をさせていただいて、状況を把握していただくというくらいかと思います。

○ 加瀬委員

事務局からどうぞ。

○ 事務局（仲村）

おそらく障害をきちんと告知し、ご本人がそれを認めて、障害としてのサービスを受けていてもいいということであれば、障害福祉サービスにつながっていけるとは思いますが、親御さんのお考えもあり、また、親御さんが相談のテーブルになかなかついていただけないという状況もあります。何かいいご意見があればお願い致します。

○ 加瀬委員

専門外でもかまいませんので、ご意見いただければと思います。いかがでしょうか。

○ 吉岡委員

ひきこもり支援としてLinkは39歳まで対応できると言っていました。お母さんと本人の相談ということで、そこにつないでみたらいかがでしょうか。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。他に何かありますか。

親御さんがまだ告知をしていない、告知はしないといった状況でお子さんはどこにも行くところがないというケースが増えています。発達障害者支援センターだけでは難しいという現実の中で、Linkや民生委員という意見もいただきましたが、他に何かございますか。

○ 久保田委員

コスモの久保田です。母との相談のところで、「広汎性発達障害と診断が出ているがこれからは自力でやっていくしかないとお母さんが言っている」とありますが、自力でやっていく方法を教わるために、就労支援に通うという選択があると伝えていただきたい。まだ17歳であり、遅れば遅れるほど難しくなるので、今がチャンスと考えていただきたい。コスモでも親がネックになっているケースはあると感じています。親にいくら話してもわかってくれず、苦労するところではあります。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。また、ご相談させていただければと思います。

もう少し時間がありますので、事例の2に入らせていただきます。事例2は発達障害者支援センターではございますが、知的障害のみのご相談です。18歳以上で知的障害と診断された方が療育手帳を申請する際に課題点が出てきております。その点に關しまして、少し意見交換をさせていただければと思います。よろしくお願い致します。

【事例2】

○課題

- ・ 少子化により、軽度知的障害の方も普通高校、専門学校、大学への進学が可能になっている。そのため18歳未満での受診、相談経験がない。
- ・ 医師の診断書により障害福祉サービスの利用は可能となったが、療育手帳を取得できないために障害者雇用での就職を目指すことができない。



- ・ 18歳以上で知的障害と診断された方の療育手帳の取得について
- ・ 障害者雇用であれば就労可能であると思われるが、手帳取得ができない方への支援について（障害福祉サービスは手帳取得が必須ではなくなったが障害者雇用は手帳所持が必須である）

○ 碓氷委員

市立養護の碓氷です。何年か前に本校でも同じようなケースがありました。最終的には就労支援機関にたどり着くことができ、そこで元気に回復されて、生活を送っています。本校では同じような相談を受けた時に、千葉市の相談支援事業所につなぐことがあります。この方はまだ若いので、いくらでもやり直しがきくと思います。そちらの道を探ってみてはいかがでしょうか。

○ 加瀬委員

はい、ありがとうございます。他に何かございますか。なければまだお話をされていない障害者相談センターの桐岡委員、いかがでしょうか。

○ 桐岡委員

18歳以上で知的障害と診断された方の療育手帳の取得についてですが、療育手帳が18歳未満の発達期に何かしらの理由で知的障害を持ってしまった方に出すというくくりが全国的にもあります。千葉市もそういう考え方でおりますので、基本的にはそれが前提になります。「療育手帳の申請」というところに「18歳未満で障害があったと証明できるもの」と書いてありますが、当所としては医療情報や相談機関での記録票が一番望ましいですが、ない場合には何か証明できるものを集めていただいています。

す。学校時代の先生にお願いをして、当時どういう子どもだったかを思い出しながら書いてもらい、それを当所に出していただいたというケースもありますが、そこまで迷惑をかけたくないという方も中にはいらっしゃいます。このケースのように何も証明できるものがない場合、こういった方法を提案させていただいています。ご本人も療育手帳がほしいと希望し、何のために使うのかを理解し、保護者の方も希望していることが条件ではありますが、四苦八苦してこちらも対応している現状はあります。毎年、2桁くらいは似たようなケースがあがっていきまして、1ケースに3ヶ月、4ヶ月かけながら、診断をしているという状況があります。以上です。

○ 加瀬委員

はい、ありがとうございます。田川委員、何かございますか。

○ 田川委員

障害者職業センターの田川です。当センターにも同じような方が相談に来られることは少なくはないです。障害者雇用がどれほどの意味のものなのか、それに手帳がどうして必要なのかについても、今一度しっかり説明をしていただいて、もう一度頑張ってみるかという気持ちになるような働きかけをしていただけるといいかと思います。

また、年に1～2事例あるかないかぐらいですが、雇用対策上の知的障害判定を当センターで行っております。その知的障害判定があれば、障害者雇用の雇用率のカウントなど雇用上の部分だけでは枠組みに入るといった形になります。やはり福祉に使えるものではありませんし、やむにやまれずといった形で利用される方がほとんどですが、最終的には知的障害判定も考えられるのではないかと思います。以上です。

○ 加瀬委員

はい、ありがとうございます。他に何か。

○ 浅野委員

今のお話で出てきた雇用対策上の知的障害判定というのはどのようにして判定するのかをお聞きできればと思います。

○ 田川委員

雇用対策上の知的障害判定は当センターで行っております。まずは当センターに判定を申し込んでいただきます。医学的側面については当センターで判定をお願いしているお医者様に面談をしていただき、心理検査、職業的な検査、親御さんなどからの聞き取り等をふまえて判定会議を行って決定していくというプロセスになります。基準としては知的障害があるかないかということを判定するものなので、障害者相談センターの療育手帳の判定基準とさほど変わるものではないと受け止めていただければと思います。

○ 加瀬委員

事例のことで外れてもかまいませんので、まだ発言されていない方お願い致します。

○ 野口委員

民間保育園協議会の野口と申します。私共は育児相談を13年位行っていますが、2歳児の段階で療育センターに行くようにと言われただけで終わっているケースが増えています。すぐに行くことはものすごい決意がいます。まだ2歳だからそんなに急がなくてもいいかという思いと早く対応しなければいけないという思いと両方あります。お母さんがあきらかにうつ病になっているケースも増えてきており、どこにつなげたらいいのかを皆さんから教えていただければと思います。

○ 加瀬委員

子育てアシストでも、そういった話が出てきます。子育てアシストにも参加していただいている保健福祉センター健康課がまだ敷居が低いので、「保健師さんに声をかけてください」と先生方にお願いしたりしています。発達障害者支援センターでは「うちの子は障害になってしまうのか」と不安になってしまいますので、まずは保健福祉センターにご相談されてみた方がいいかと思います。他に何かありますか。

○ 菊池委員

早期発見、早期対応が自閉症の子には必要です。逆のアドバイスをされ、二次障害を発症することが多かったりするので、きちんと対応することが大事です。障害がある、少し丁寧に子育てしないといけないと言われたら、その先のアドバイスしてくれるところにつなぐことが大事です。各区の保健福祉センターで気になる子の子育て講座などが定期的開催してほしいと思っておりますがいかがでしょうか。

○ 田島委員

そうですね。おっしゃる通りでございます。

○ 加瀬委員

まだ発言されていない保育運営課はいかがでしょうか。

○ 渡邊委員

保育園でも2歳位から、他の子と少し違うなという子がいます。保健センターの保健師さんへの相談を勧めることもありますが、なかなか認められないという方もいらっしゃいます。「この子が困っているんですよ」とお話をし、「皆で一緒に見ていきましょうね」と話していくと、お母さんも段々と気持ちが専門機関に向かったりします。最近は3歳位でも発達障害と診断してくれるようになって、「この子が一番困っているよ」と職員にも共通理解をして、皆でその子のサポートをしていこうとなっ

ています。なかなか認めてくれないお母さんへは囑託医の先生から言っていただくと、受け入れてくれたりもします。障害児と認定されて、職員も多めに加配していただいたりしているので、皆で早期発見ができていければと思います。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。続きましてこころの健康センターお願い致します。

○ 岡田委員代理（菊池氏）

こころの健康センター菊池でございます。この事例2のケースで確認ですが、障害年金はいただいているのでしょうか。

○ 事務局（仲村）

年金は受給していません。申請もしていません。

○ 岡田委員代理（菊池氏）

当センターの事例として、どこの医療機関も受診していなかったのですが、当センターでの相談歴があり、相談内容について証明してもらって年金申請をしたいという相談がありました。5年以上経っていましたが、受付簿に記録が残っていましたので、相談があったことを証明したという事案がございます。

この方は事例1とは違い、親御さんも本人も障害を認めて前を向いて行こうとしているように見受けられます。親御さんも本人の将来を気にしていると思うので、もし可能であれば本人の支えとなる障害基礎年金については就労とは別に支えの1つになるかと思いますので、検討していただけたらと感じました。以上でございます。

○ 加瀬委員

ありがとうございます。最後に櫻井委員お願い致します。

○ 櫻井委員

精神保健福祉課の櫻井と申します。課ができてから1年も経っていませんが、直接課に来られる方が多くいらっしゃいます。お子さんのご相談が多く、ひきこもり状態になっていて、暴れたりするので困っているというようなことです。相談先としては各区の健康課の精神保健福祉相談をお伝えしているところです。

感覚としましてはひきこもり状態になっている方が増えている感じがありますので、そういった方の受け入れ先の整備や受け入れ先へのつなぎといった対策がこれから重要になるのではないかと感じています。まとまりませんが以上です。

○ 加瀬委員

今いただいた意見を元に支援センターの相談の中でも活かし、また他の地域の方々

へも情報が行き渡るように進めていきたいと思います。ありがとうございます。

○ 杉田座長

色々ご意見いただいてありがとうございました。座長として少しまとめさせていただきます。早期診断に関しては乳幼児健診、保健師の役割が大きいと思います。例えば療育センターに紹介する時に紹介状や簡単なコメントを療育センター宛に書いてもらいたい。電話で行きなさいと指導するだけではなく、かかりつけの医師を通して医療機関に行くようにしていただきたい。なぜかと言いますと、返信を書くことによって保健師の方達にもフィードバックができるからです。

発達障害者支援センターでは幼稚園と保育園へも行っているのですが、その事業をどんどん増やしていただけたらと思います。虐待について、特に発達障害のお子さんは虐待等も起こりやすいと言いますので、千葉市としても積極的に取り組んでいただきたい。

教育支援に関しては特別支援学校のセンター的な役割をより重視していただきたいと思います。学校にいる時間が長いわけですから、教育関係者が中心になって子ども達を受け止めていただければと思います。

また、先程も言いましたが、書類の煩雑さ、システムの問題については行政に考えていただきたい。

他に何かございますか。それでは本日の議事を終了致しますが、では事務局の方にお返しします。

○ 事務局（上田）

事務局から1点お知らせがございます。本日の議事録についてですが、杉田座長に内容を確認していただいた上でご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。よろしい場合は挙手をお願いします。

ありがとうございます。事務局からは以上です。委員の皆様方、長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。以上をもちまして、第8回千葉市発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。